

〒260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉2-17-6  
サンコート新千葉102号  
E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp  
TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263  
発行責任者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター  
2022年3月10日発行 第99号 1部100円 <https://chiba.gekijou.org/>



0歳からの乳幼児とその親の芸術との出会いは、赤ちゃんが生まれながらに持っている力と愛らしさを、一緒にいるママが一番実感できる場です。おだやかで安心できる環境の中で、乳幼児のことを研究しつくしたパフォーマーが、親子のすべてを包み受け止めて、すばらしいコミュニケーションの時間が流れます。赤ちゃんの笑顔が、どんなに良かったかの答えを教えてください。

現代社会は大人も子どもも生きにくい社会です。それを克服する1つの手法として、優劣や勝ち負けがない、芸術との出会いがその突破口を開くことになるのでは？と、毎年子どもたちに出会う度に強く思います。

コロナ感染拡大で何度も延期が続き、コロナ禍をかくぐりながらの実施になりました。4事業ともプロのパフォーマーによる洗練されたパフォーマンスが、子どもたちに届けられました。

子どもたちと芸術との出会いはいつも圧巻で感動的です。お腹を抱えてケラケラと声を出して笑ったり、普段まったく見ることがないような表現や動きを自然にやっつてのけたり、楽しくて仕方ないというように、はじめておどけた表情を見せてくれます。学校や施設でのワークショップでは、子どもたちの表情の豊かさ、先生方がまず驚き、「授業ではこんな風にならないです」と、日常では見られない姿だと率直に伝えていきます。

### 子どもゆめ基金 QOL向上と芸術との出会い

- 事業名：病院、児童福祉施設の子どもたちが自己肯定感を高め、コロナ禍の今をのりこえるあそび・交流ワークショップ体験
- 目的：長期入院している子どもや児童福祉施設にいる子どもたちが、参加型で「楽しくあそび・体験すること・QOL向上」
- ワークショップ：病院1カ所 児童相談所7カ所 児童福祉施設10カ所 計18カ所
- 参加数：子ども414人 大人146人 指導者72人 スタッフ39人 計671人

**データより**  
ワーク体験：楽しかった・うれしかった・おもしろかった・びっくりしたが93%以上。満足した・自信がもてた等、満足感や達成感、自信、興味関心や意欲といった意識の変容の記述も多数。  
QOL向上・自己尊重感情の醸成：子ども期にこうした出会いが多いほど、醸成や向上に繋がる記述多数。

### 赤い羽根 はじめて芸術に出会う驚き

- ★事業名：0・1・2・3歳児が出会うはじめてのおしばい
- ★目的：①アート等の力で、笑顔になり五感で感じる表情等、驚くような発達と成長を発見する。  
②保育士等と乳幼児の愛着の深まりと、保育士自身が安心し癒されます。  
③乳幼児期からのアプローチが大切なことを、乳児院や社会から理解を得る
- ★ワークショップ：乳児院3カ所
- ★参加数：乳幼児29人 保育士等施設スタッフ29人

**データより**  
子どもの表情：笑っていた・興味深くみていた 上位  
保育者の気持ち：楽しかった・うれしかった98%以上  
たくさん参加できた：98% また参加したい100%  
やってみたいプログラムがあった90%

### WAM事業 乳幼児の親子と芸術との出会い

- 事業名：「0歳～2歳と親が笑顔になるワークと施設スタッフの支援力向上」事業
- 目的：①プロのパフォーマーによる乳幼児向きのワークショップと、乳幼児といっしょに親自身も癒され日常生活に活かせるあそびスキルを身につける。  
②支援スタッフの支援力の向上。
- ワークショップ：乳幼児支援施設17カ所
- 支援力向上講座：乳幼児支援施設6カ所
- 参加数：乳幼児225人 保護者135人 施設職員94人 行政16人 計470人

**データより**  
子どもの表情：笑っていた・興味深くみていた上位  
保護者の気持ち：楽しかった・うれしかった90%以上  
また参加したい：ワーク大多数 講座：100%

### 芸術家派遣事業 授業で芸術体験

- ◆事業名：「令和3年度 文化芸術による子供育成総合事業」～芸術家の派遣事業～
- ◆目的：すぐれた舞台芸術家との出会いと体験をとおして感動をとどけ、子どもが発達していく上で求められている課題、自己発見、他者発見、自己肯定感を高めるなどのとりくみにしていく
- ◆ワークショップ：小学校・特別支援学校92校
- ◆参加数：子ども3,412人 教師628人 教育実習生・看護師3人 保護者24人 地域の人7人 計4,074人

**データより**  
子どもの声から：実施後やりたい、もっとやりたい91%  
授業として：成功体験・知見が深まる・自立活動・表現方法  
子どもの成長発達：文化芸術や伝統芸能等への関心を高めること・豊かな心や感性、創造性をはぐくむことができた

芸術との出会いは、もつと豊かに生きていく突破口になる  
子どもの笑顔や発したことが何よりの証し！

成果報告会から  
**成果と  
課題**

プロの芸術家の力は、笑顔と癒しの「まほうつかい」のよう！  
行政との更なる連携で 親子に切れ目のない子育ての喜びと幸せを！  
**赤ちゃんが教えてくれる し・え・んとは**

■日時：2022年2月28日（月）14:30～16:30

■参加者総数：90人

■会場：千葉市民会館特別会議室2&ZOOM参加

■発信者14人の概要



★★実施施設からリアルな声 2人★★

白井老幼の館 インストラクター 伊藤芳枝さん  
成田市三里塚なかよしひろば施設長 伊藤京美さん

一瞬に子どもを引き込んでいくプロの力は「まほう」のよう。子どもたちは「ぼかん」と口をあけ食い入るようにみた。その姿はとてかわいらしく、我が子を覗き込むように笑顔でほほえみ、親子の絆を深め子育ての喜びを感じるものだった。親に愛されていることを感じる事が、生きる力につながる。市民の願いとして事業を継続し拡大してほしい。

★★ワーク参加の保護者2人★★

長谷部明奈さん 内藤友加さん

コロナ禍でこのような活動を実施してくれてありがとう！イベントがなくなり、児童館にも行けなくなり、不安な中で子育てをしていた。子どもが全身で感じて動いていて、音にも反応して集中して楽しんでた。パフォーマーからの優しい声かけが「がんばりすぎないでいいんだよ」と、言われたようで、気持ちがだんだんリラックスしてきて心が癒された。また参加したい。定期的に無料で続けてほしい。

★★支援力向上講座に参加した施設スタッフ2人★★

認定こども園四街道さつき幼稚園 保育士 鳥海樹里さん  
佐倉老幼の館インストラクター 宍戸美栄子さん

講師から、伝えたいことの一番は「自分になってほしい人になること」だと。講座で学んだことを、園での実践に活かしている。わらべうたは繰り返すほど楽しさが伝わる。道具がなくても楽しめ、口ずさんで生き生き遊べて、親子の愛着形成に有効。また、身近なものでいろいろ楽しく遊べることを

学び、職場に持ち帰り実践した。楽しむことを第一にし、新聞紙あそび、おにぎりの手遊びは大人気。刺激をたくさんもらい、モチベーションが上がった。またぜひ参加したい。

★★ワークのパフォーマー・講座の講師★★

人形劇団ののはな 納富俊郎さん

劇団風の子 大森靖枝さん

アフリカには1人の子どもを育てるために100人の村の大人が必要ということわざがある。赤ちゃんは自ら主体的に育つ力があり、それを応援するのが子育て。心を込めて思いを伝え、喜びや幸せを感じるようなプログラムやプロの力が求められる。0歳～2歳のワークはハプニングの連続で、それをおもしろがっている。今年も赤ちゃんには交渉力があることを発見。「赤ちゃんが教えてくれる」本当にそう思う。

★★行政との連携、施策への可能性等について★★

佐倉市こども政策課 課長 上野裕子さん

成田市子育て支援課 副主査 在田義隆さん

市川市子ども家庭支援課 副主幹 横溝ひとみさん

コロナ禍でも子どもの成長は待ってくれない、今こそやらなきゃという思いがある。芸術家によるワークは参加型で親子をひきつけ、つながりを生む「まほう使い」のよう。プロのパフォーマーの、子どもや保護者へのかかわり方は、現場スタッフとして学びも多かった。講座は、自分が感じることを全部が正解で、他者との比較もしない。コロナ禍の今こそ、アフターコロナでも、子どもにも大人も丸ごと受けとめられ癒されるこうした事業のニーズが高まると思う。財政等課題はあるが、今後もぜひ連携させていただきたい。

■2021年度

**コロナ禍での4つの成果目標**

データ分析とコメント

仙台白百合女子大学特任教授 佐野裕子さん 子ども劇場千葉県センター 滝口淳子 中村雪江

①0歳～2歳児を持つ親が、あそびのスキルを身につけて、日常生活に活かし、笑顔で毎日を過ごす一助になる。

★参加者の93.9%は2歳までの低年齢児。コロナ禍で家に閉じこもりがちな親子にとって活動欲求を満たしてくれ「自由、大丈夫、安心 楽しむ 走り回る 笑顔」等の語句が多数確認でき、親子でワークに参加することで笑顔になる時を過ごせた。「親も子ども笑顔になる」の目標は十分達成されたと言える。

★参加者のほぼ全員(93.1%)が持ち帰ってやってみたくてと回答。「遊びのスキルを身につけ生活に活かす」が果たされた。

②乳幼児の行動や著しい成長発達を知って感じて、親としての喜びになり子育てを前向きに楽しめるようになる。

★子どもの表情について「緊張した、あきた」という子もいたが、それにも増して「楽しかったが88.9%」「嬉しくもあり38.1%、癒された36%」「安心でき9.5% ほっとした7.9%」と、この事業が保護者支援にもつながったことが窺われる。また、「子どもの目が輝いていた 興味深く見たり聞いたりしていた 真似をしていた」など、保護者が我が子やわが子以外の子どもの姿を知ることができた。コロナ禍で子ども同士、親同士の関わり希薄化した現代、意義深い事業である。

③施設支援スタッフを対象に、芸術家の指導による支援力向上講座で、親子への関わり方や遊びの専門性を高める。

★支援力向上の講座に参加した受講生の90%が「おもしろさや楽しさを感じた」70%が「あそびや製作のスキルを覚えた」と回答。保育の実践的な技術や理論など、多くの学びが得られた。地域全体の子育て支援の質の向上の目標に繋がった。

④乳幼児期からのアプローチが大切なことを、市町村行政の理解と賛同を得て、連携して取り組む。

★非認知能力の土台となる0歳～2歳を対象を絞ることを行政訪問をして伝え、理念への賛同を得て、連携の意義をくみ取り、主体性をもって参加する個所が増えた。子どもの姿を見たすべての職員が「目から鱗」と実感し、連携が更にすすんだ。

# 支援力 向上 講座

## 行政や支援施設からのニーズが高く 行政との連携が進む

芸術家を講師に迎えた6箇所での講座は、支援者としての関わり方やスキルを実践的に学び、楽しく有意義な講座となりました。支援施設の支援者自身の学びたい欲求に応えてくれたと高く評価され、講座内容への満足度100%、次も参加したい！100%。地域全体の子育て支援の質の向上の目標に繋がった。



### ■「支援者のためのわらべうた講座」

実施施設：さつき幼稚園

日時：8月27日(金) 13:00~15:00

講師：大沢愛 参加者：14人

わらべうたから子どもの心、身体を育てる。(信頼、コミュニケーション、想像する、見る、聞く、感じる、人に伝える) 日本の文化、知恵。伝承、暮らしの中に根付いたもの。「困ったときはわらべうた」わらべうたの習慣3つぐらいあれば、親も子ども救われ、骨太の子育てができる。

①ウォーミングアップ「ちょっとばーさん」(ジャンケン遊び) みてまねる、わらべうたの根幹。

②<目と目を合わせ、信頼関係の根っこを育む>  
<ふれあいあそび~心を通わせる>



### ■「子どもとあそぶための人形づくり講座」

実施施設：千葉市植草学園短期大学保育課学生

日時：10月18日(月) 16:40~18:10

講師：納富俊郎 参加者：13人

子どもたちが最初に出会う大人が豊かであると子どもたちは豊かになる。人生の始まりを教えるのはみなさんたちで、尊敬します。お母さんが困っているときは助けてあげてください。今はたくさん作らないとダメです。たくさん失敗するのが大事です。どうしてうまくいかないのかを子どもたちに教えられるからです



### ■「えがおがいっぱい表現あそび」

実施施設：市川市八幡親子つどいの広場

日時：10月21日(木) 16:15~18:15 15人

実施施設：成田市もりんぴあ公津 成田市内合同で

日時：11月1日(月) 10:00~12:00 19人

実施施設：佐倉市臼井老幼の館

日時：11月22日(月) 10:00~12:00 20人

講師：大森靖枝 参加者：54人

「子どもは一瞬にして出会う人、雰囲気似る。空気感をキャッチする力がある。支援者も親も楽しんでやっていると子どもに伝わるのよ。これが講座で伝えたい一番大事なこと」と、大森さんからメッセージが伝えられた。「小さい子は丸いものが好き、0歳の耳はすごい」等、の0.1.2歳の発達過程や、どの本にもない大森さん自身が実践の中で積み重ねたリアルが満載だった。



### ■「豊かな遊びわらべうた」

実施施設：印西市子育て支援課(印西市文化ホール多目的室)

日時：11月25日(木) 14:00~16:00

講師：川中美樹 参加者：13人

わらべうたをうたうと、赤ちゃんがじーっと声のする方を見ている、返すように声を出す、ある日突然まねをする。地方によってうたや言葉がちがうこと、そして今はドンドン伝承が途絶えている事。遠野のわらべうたについてもその意味を一つ一つ聴いた。

顔でおはなしや言葉が伝わる、身体からつたわる、声で「かもし出す」空気感となって子どもに伝わる。わらべうたは愛のシャワーであり人を育てるうた。愛のシャワーをたくさん浴びさせてください。わらべうたは、将来にわたり子どもの成長発達に影響を与える基本の基を育む貴重なうたです





■プログラム名:「人形劇 にこにこげきじょう」

パフォーマー:人形劇団のはな 納富俊郎 納富祥子

☺実施施設:千葉市小倉台中央自治会館(いろは保育園) 19人

☺実施施設:袖ヶ浦市根形公民館 28人

☺実施施設:野田北コミュニティセンター 14人

☺実施施設:印西市そうふけつどの広場 28人

「0歳からの乳幼児は「全身が目と耳」  
音に敏感 じーっとみる 感性が一番発達する時期」  
「あんなによくみるなんて びつくり! 目から鱗!」  
参加した行政職員が思わず発したことば」

おおきな めだまのこぶたさんと おはなしたよ。かえるさん  
ンゲコゲコ♪ いっしょにジャンプ ジャンプ!

4色に彩色した「こぶたぬきつねこ」が大きなコップから♪こぶた ♪たぬき♪きつね ♪ねこの歌に合わせて頭を出したり引つ込めたり、その彩のきれいなや生きているような表情のゆたかさで、会場全体が和み、親子は一気に笑顔になった。人形の動きのマネもしたり、ママの膝を離れて前に出たり戻ったり、嬉しくてたまらないようにはしやぎまわって笑う。首を伸ばして、まばたきしないで目でじーっと追っている。そして、飛び跳ねてニコニコ。

●参加した市の職員は、子どもたちの反応にびつくり。来年もぜひ他の公民館でも実施したいと希望。

☺わが子の表情について

- よくわらっていた・・・20人
- 興味深くみていた・・・25人
- あきたようだ・・・3人
- まねをしていた・・・13人
- ふだん見られない動き・・・7人
- 緊張していた・・・3人



■プログラム名:「おやこでいっしょにダンスあそび!」

パフォーマー:安西真幸

☺実施施設:西白井複合センター レクホール 27人

☺実施施設:認定子ども園四街道さつき幼稚園 22人

☺実施施設:松戸市 おやこDEひろば小金原 14人

☺実施施設:習志野市こどもセンター 85人

☺実施施設:佐倉市白井老幼の館 29人



まねっこたのしいな。おしりをピョンピョン ねころんでゴロゴロ ママといっしょにダンスしたよ!

☺わが子の表情について

- よくわらっていた・・・33人
- 興味深くみていた・・・34人
- あきたようだ・・・6人
- まねをしていた・・・28人
- ふだん見られない動き・・・10人
- 緊張していた・・・25人



●参加した市の職員は、笑顔でかわりあう親子をほほえましく見届けた。子どもたちがよく見ていることに驚き、「目から鱗だ!」と、びつくりしていた。直接リアルに子どもの姿を見ることで理解が深まり、芸術の力を実感したようだ、

ミッキーマウスのメロディに乗って輪になって電車ごっこ。お母さんたちもガタンゴトン♪と声を掛け合う。手をキラッキラツツ 手を上にあげて体を伸ばす 手をパチパチパチパチ うさぎさんだよ。輪の真ん中で振りをよく見て、すぐに真似てニコニコ顔で踊っている。「いいですね!」まあちゃんの誉め言葉。じーっとみている子もしばらくして、ママの膝から立ち上がり体を動かし始めた。向かい合って手をつなぎ、ママの足をピョンピョンと飛んでまたぐ。今度は布を飛び超える。わあわあくと楽しそうなお声が会場に響いていた。

■プログラム名:「わらべうたあそびうたとおはなしのじかん」

パフォーマー:大沢 愛 実施施設:イーハトーブ 22人(保護者無し)

実施場所:コミュニティー長柄 33人

ぼくをじっとみている おめめがいうの「だいすきだよ」って。コチョコチョコされてくすぐったい。

保育士さんのお膝の中で笑顔になる子、保育士さんの指先をじーっと見あげている子。表情がほぐれ「にぎにぎにぎ」では、保育士さんと向かい合ってニコツとした笑顔になった。「てってのねずみ」では、くすぐりでケラケラと声を出して大笑い。最後のかねの音には敏感に反応し、何だろうと興味津々という顔を、かねを触りに行った。「さよならあんころもちまたきなこ」「おいしいね!」と。

# 乳幼児のワークショップ

## ■プログラム名：「みんなでいっしょに劇あそび」

パフォーマー：劇団風の子 大森靖枝

☺実施施設：市川市昭和学院もこもこ・こどもセンター 19人

☺実施施設：横芝光町子育て支援センター横芝 38人

☺実施施設：ねむの里保育所 つるとかめ 19人



☺わが子の表情について  
よくわらっていた…10人  
興味深くみていた…16人  
あきたようだ……3人  
まねをしていた…6人  
緊張していた……3人



ラップが「ぷーっ！」と鳴る。瞬間子どもたちが注目！じつーと目で追っている。「なんだろうな？ なんだろうな？」の声と動きに一緒に体を動かす「りんご！」「正解！」パチパチと自分で手をたたいた。体をお母さんに預けて心地よさそうにしている。マヨネーズの空容器に水が入っていて「吹いてみるよ。ぽーっ」電車が走るような音にみんなびびくりしていた。「しゅっ しゅっ しゅっ しゅっ しゅっ しゅっ しゅっ しゅっ しゅっ しゅっ」マヨネーズの笛に合わせて、電車ごっこが始まり、全員で連なって会場を走った。丸いものや音が、子どもたちの大好き。おきたわくわくタイムだった。

ママのおひざはゆりかご。ひこうきやきしゃにもって どうぶつさんやおともだちとも おはなししたよ！



## ■プログラム名：「歌子さんのはじめてのコンサート」

パフォーマー：リーフ企画 歌子さん ぴんたろう

☺実施施設：成田市三里塚なかよしひろば 31人

☺実施施設：ひよしだい保育園 25人(保護者無し 保育士)

☺実施施設：市原市里見小規模保育所 17人

うたこさんのこえ♪はこもりうたのようだったよ。  
きもちよくて いつのまにかねむってしまったの。

☺わが子の表情について  
よくわらっていた…11人  
興味深くみていた……8人  
まねをしていた……5人  
緊張していた……4人



お母さんに、子どもの名前をききなから、よろしくのごあいさつ。多少緊張気味の1歳〜2歳の子たちが歌子さんの手の動きに合わせて♪だいくのきつきさん… オールディーア♪を歌いながら、ママといっしょに振りをするうちに顔がほころんできた。お名前を呼ばれて「はーい」とママと一緒に応え、名前を呼ばれた子どもはニコっとし、ママはうれしそうに顔になった。じやりじやり、トントングラガラと楽器の音がすると、子どもたちは敏感に反応する。何の音？目と耳が楽器に向いている。最後の歌「寿歌(ほぎうた)」は、生まれた喜びと大きく健康に育つてね！という願いが込められた唄。胸が熱くなるような歌だった。

2021年度赤い羽根共同募金助成事業

## 0.1.2.3 歳児が出会うはじめてのおしばい



コミュニティ長柄	7月21日(水)	パフォーマー：大沢愛 38人 わらべうたとおはなしのじかん
乳児院エンジェルホーム	11月9日(火)	パフォーマー：安西真幸 23人 みんなでいっしょにダンスあそび
聖愛乳児園	11月17日(水)	パフォーマー：川中美樹 12人 ゆったりのんびり わらべうた

コチョコチョコされて笑顔がこぼれ、語りかけにも「うーうー」と声を出して応えていた。♪にぎにぎにぎで、真似っこして手が動き「できたねー」と声をかけると嬉しそうに笑顔がみられた。そんな笑顔がみられた。わらべうたは繰り返して繰り返して、歌ってくださいなね」とのアドバイスに保育士も納得の様子だった。ダンスでは音楽が鳴ると体を動かし、高い！高い！は何度もせがみ、また目と目を合わせ、パクパクをじーっと見ていた。0歳からの赤ちゃんの感性には、いつも驚き感動。



## ●参加した行政職員から頂いた手紙 (抜粋)

当該プログラムは、参加型のコンサートであり、演者と参加者、また、参加者同士の双方向の交流がある。社会的に核家族が多くなり、身近に頼れる祖父母などの親族がいなくて子育て世帯が増加している中では、交流を促し、子育て世帯同士をつなぐきっかけ作りが大切なものであると改めて感じた。

また、プロの演者によるものであり、より質の高いイベントに参加者に楽しんでいただくことができたと考えている。プロのパフォーマーの参加者への関わり方などは、大変参考になり、日々の業務に活かせるものであったと考えており、参加者のみならず現場スタッフにとっても大変有意義なものであったと思う。このような機会をいただき、ありがとうございました。

## 自己肯定感につながる！ 満足感・達成感の笑顔いっぱい！

様々な背景を持ち、生きづらさを抱えながら生活しているたくさんの子どもたちがいる。アートに触れることで目を輝かせ、心おどらせた。自分の思ったようにできた、やれた、褒められた、何よりみんなで楽しめたことが嬉しい！ このような体験の積み重ねが子どもたちの可能性を広げていく。

### ●病院1か所 できた！ きれい！ もっとやりたい！ が自己肯定感に

＜わくわく工作！オンリーワンを作ろう！ 濱美幸 他6人＞

1	国府台病院	12月2日（木）10:10～12:10	子ども28人 施設関係者11人
---	-------	---------------------	-----------------



革の肌触りが気持ちいい

ビー玉万華鏡、ビーズのストラップ、革細工  
院内学級の教室と運動場に並んだカラフルな材料、だんだんリラックスし質問や会話も弾んできた。作ったビー玉万華鏡を覗いて「きれい！」と驚きの声。ビーズのストラップ「いくつも作っていいの？」と色合いを考えながら「これは海の色」。様々な革を触りながら「何を創ろうか」と考えるのも楽しい。「楽しくて時間の過ぎるのが早かった」「自分は何もできないと思ったが、やってみたら意外とできた」「やればできるかも・・・」という声を聞き、「自己肯定感の高まりにつながっていったと考えられる。」と教師が話してくれた。



### ●児童相談所7か所 お～それいいね！褒められ、楽しくって心もスッキリ

＜みたこともない生き物をつくろう 永野むつみ 大沢直＞

2	君津児童相談所	10月1日（木）10:30～11:30	子ども20人 施設関係者5人
3	銚子児童相談所	10月8日（木）10:30～11:30	子ども36人 施設関係者6人



世界に一つの生き物ができたよ

色とりどりの紙や封筒、テープ類が並べられた会場に入って「わ!?すごい!」顔がぱっと明るくなった。紙で切った人形の変化に「うわー、魔法だ」、シュレッダーに夢中になって「面白くてスッキリする!」。できた作品を、「ねー見て見てー」と自慢げに見せ、褒められてみんな笑顔。どんな生き物?の発表で、「悩みを吸い取ってくれる。吸い取ってくれたからもう大丈夫。」「元気もりの星の海に住んでいる」自分で考え、自分だけの気持ちの表現を楽しんだ。子どもの想像力は豊かだ。気に入っているところは?ときくと「全部好き」と満足気な顔で自信に充ちていた。



シュレッダーやスタンプ、ピンキングバサミなど、文房具もカラフル

＜人形劇ワークショップ 納富俊郎・祥子＞

4	柏児童相談所	10月19日（火）13:25-14:30	子ども52人 施設関係者15人
---	--------	----------------------	-----------------



抱腹絶倒赤ずきんちゃん パタパタちょうちょ

人形劇「こぶたぬきつねこ」「赤ずきんちゃん」他、工作歌に合わせてコップから人形が飛び出し引っ込む、踊る…一気に引き付けられた。「赤ずきんちゃんにげて～」と、オオカミとの掛け合いに中高生まで大笑い!ちょうちょをどんなふうにも作ってもいいよと言うと、一斉に色とりどりの材料選びに行った。「作ったのは、宝物にして、家でも妹と作ってみたい。」と、満足顔。「思いっきり工作もできて今日は良い一日だった。さすがにプロは素晴らしい。大人も一緒に楽しんだ」と、みんな笑顔だった。

5	市川児童相談所	8月20日（金）9:45～11:45	子ども 33人 施設関係者 8人
6	東上総児童相談所	10月5日（火）13:00～15:00	子ども 17人 施設関係者 6人
7	中央児童相談所	11月19日（金）10:30～14:00	子ども 61人 施設関係者 14人



こんなのできる?できるよ。イタタタタ。

気おくれしているようだったが、体をいっぱい動かそう!と、体ほぐし「できるよ」足ジャンケン。見えないボール、卵、羽などキャッチでイメージ遊び。「いいね!その動き、採用!」見てくれた、やったー!曲に乗せるとノリノリのオリジナルダンスになった。「久々にいっぱい動いた!」「ダンス1つでこんなに楽しくなるとは思ってなかった。」「楽しくて、ちょっと難しくて、忘れられない思い出になった。またやりたい!」満足そうな顔・顔。「ダンスは人とつながることもできるし、嫌な気持ちをふっとばすことを知った。」得意でも苦手でも、のびのびと表現できてみんな笑顔!

<アフリカンパーカッション B.B.モフランワーク>

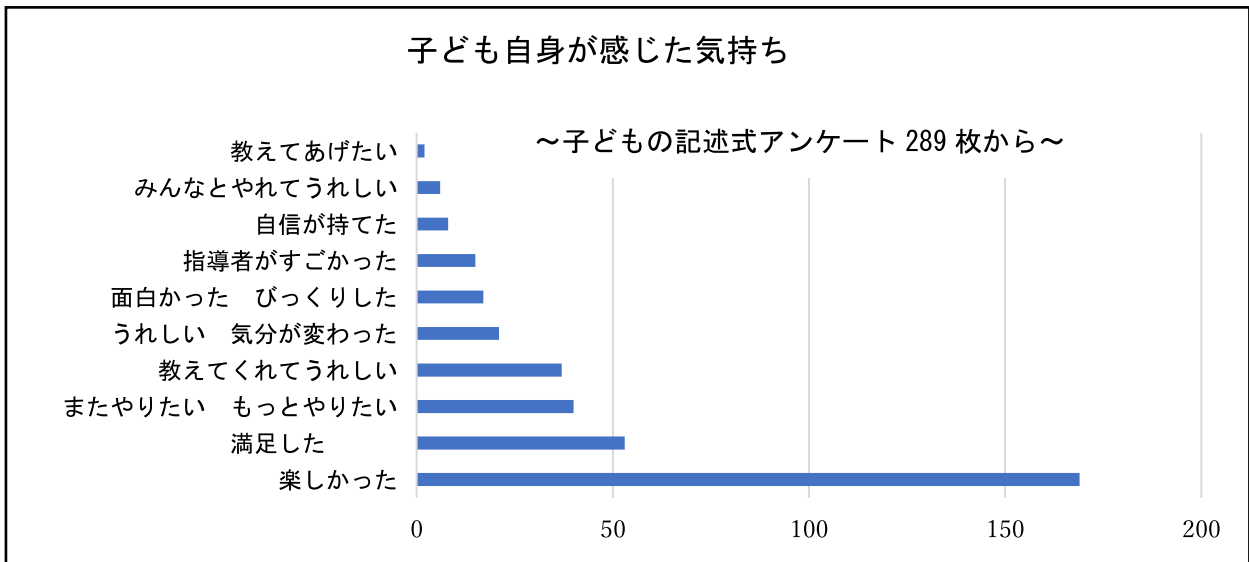
8	千葉市児童相談所	12月7日（火）9:30-11:30	子ども 37人 施設関係者 5人
---	----------	--------------------	------------------

マラカスづくり、アフリカの音楽・ダンス、太鼓の体験

作ったマラカスを鳴らして演奏に参加し、だんだん緊張もほぐれリズムにのって楽しんだ。トーキングドラムでの赤とんぼの演奏に合わせて自然とみんなが歌い出した。「太鼓を初めて叩いた。緊張したけど楽しかったー。」ダンスも思いっきり楽しんだ。「君はスーパーダンサー」と指名された子、前に出て得意そうに踊った。「子どもたちがだんだんリズムにのる様子が目に見えて分かった。体と心が動かされた。この貴重な体験が、より豊かな生活に向けての基盤の一部になったようだ。」と、職員がうれしそうに語った。



ジャンベを叩いたよ



■子どものアンケートから見えたこと

289枚の記述から、子ども自身が感じた気持ちがいかなる言葉で表現され、「楽しかった」「うれしかった」「おもしろかった」「びっくりした」が270枚あり93%。「満足した」「自信がもてた」「教えてあげたい」等、満足感や達成感、自信、興味関心や意欲といったもっと深いところで意識の変容が見られる記述がある。子どもたちは、元々育つ力を持っていて、子ども期にこうした出会いが多いほど、自己尊重感情の醸成・QOL向上に繋がると考えられる。

●児童養護施設3か所 児童施設1か所  
ほら見て！ できるよ！ 「あ～今日は楽しかった」

<ダンスワークショップ 安西真幸・安西千紗>

9	野の花の家	8月23日（月）13:30-15:30	子ども19人 施設関係16人
10	ほうゆうキッズホーム	2022年1月4日（火）13:30-15:30	子ども31人 施設関係4人



ノリノリダンス

ホールの端から端までピョンピョン、ケンケン、「こんなことができる？」指導者の言葉に「何でもできるよ」「イェーイ!」「ちょっと変!」。ランニングマンのステップも真剣に挑戦「スバラシイ!できてる!」と指導者の称賛に笑顔!明るい雰囲気が広がり、汗びっしょりに飛び回った。「できない子に教えてあげたり、待ってあげたり、うまくできなくてもいじけることなく楽しむ姿など、普段の生活では見られない姿も見られた」と、職員もうれしそうだった。

<伝承遊びやからだをつかってあそぼう 大潤弘幸あそびワーク>

11	一宮学園	10月10日（日）13:30-15:30	子ども22人 施設関係者13人
12	松戸市野菊野子ども館	11月21日（日）13:00-15:00	子ども20人 施設関係者4人

最初の「色鬼」からテンション上がり、「なりきりかくれんぼ」でお地蔵さんになった子「すごいね!」に嬉しそう。「震源地はどこだ」は職員も一緒に楽しみ一体感。お手玉は1個から少しずつ難易度が上がり、いろんな体の動きで遊んだ。手作り紙コップけん玉をいろんな形や遊びも考えたりオリジナリティー豊か。「ひさしぶりに、みんなに会えた。」遊びの集中力がすごかった、全員が夢中で遊んでいた。帰り際に男の子が「あ～今日は楽しかった」と大きな声で言った。



「震源地はどこだ」ゲーム

●放課後等デイサービス6か所  
自分で決める、自分だけのオリジナル

<エプロンシアター&つくって遊ぼう 飯野真子他3人>

13	大成会本城ルーム	7月31日（土）10:00-12:00	子ども11人 施設関係者6人
----	----------	---------------------	----------------

エプロンシアターに集まってきて、大型絵本や紙芝居のcockさんの表情が変わるとよく笑い、消えたcockさんをさがしに紙芝居の裏まで見に行った。わからないことは質問しながら紙皿や紙コップでフリスビー作り、シールなどこだわりの模様に没頭。的あて成功に両手を挙げてジャンプで大喜び。自己選択、自己決定に繋がっていた。そして、満足感をもって遊べた経験の積み重ねが自己肯定感につながる。



<キラキラクラフトタイム 大塚るい他3人>

14	むぎ畑	11月16日（火）14:00-16:00	子ども9人 施設関係者5人
----	-----	----------------------	---------------



くるくるレインボー、  
ふんわり毛糸のカップケーキ

くるくるレインボーは、動きの面白さに全員満面の笑顔。ビーズのキーホルダー、ふんわりカップケーキと、3種に挑戦し「三つ目完成!」「楽しい!」と、嬉しそう。難しいものも作れて、褒めてもらったり、みんなが成功体験できて自信につながった。「もっと作りたい」と、自らやる気がわきあがっているエネルギーがすごく感じられたと、職員の感想。新しいことへの挑戦、工夫すること、初めて会う人への対応の様子等、普段と違う様子の発見があったようだ。



↑フリスビーでの的あて  
←エプロンシアター



<革のアクセサリーを作ろう！ 井澤智子他 3 人>

15	ハクナ・マタタ	11月17日（水）15:00-17:00	子ども 10 人 施設関係者 5 人
----	---------	----------------------	--------------------

中学高校の子どもたち。皮が革になる話、革製品は？ベルト、ソファー…次々に声が上がった。革を触り、「この色好き」「これ気持ちいい」「あったかい」と話した。兄弟の分も葉を作る子も。「とても楽しかった。大切に作る。」「自分でデザインの構成を考えたのを立体的でいいね。と言われて嬉しかった。」発表で、褒められて拍手され大満足、自己肯定感も得られた。慣れない素材にも子ども達が想像以上に意欲的に取り組み、個性あふれる作品づくり楽しんでいたことに職員が驚いていた。



切り抜いた模様をボンドで貼るよ

<ふわふわどうぶつさんと遊ぼう 加形ふみ子他 3 人>

16	結	11月29日（月）9:30-11:30	子ども 10 人 施設関係者 6 人
----	---	---------------------	--------------------



2～6 歳の子どもたち。かわいい指人形達が園庭でおはよう！初めて会った指導者とおしゃべり。パネルシアターでは、ニャオーと猫や登場する動物の真似っこも立ち上がって楽しそう。風船動物作りは、ペタペタとシール貼りに夢中。出来上がった風船さんとお庭でかけっこやかくれんぼ、ゆったりと遊ぶのがとても嬉しそう。「楽しかった」「また来てね。」と別れを惜しんだ。職員は、普段自分からの動きの少ない子の反応が良かったと、いつもと違う一面が見れたという。

風船に耳やしっぽを貼るよ、ペタペタ

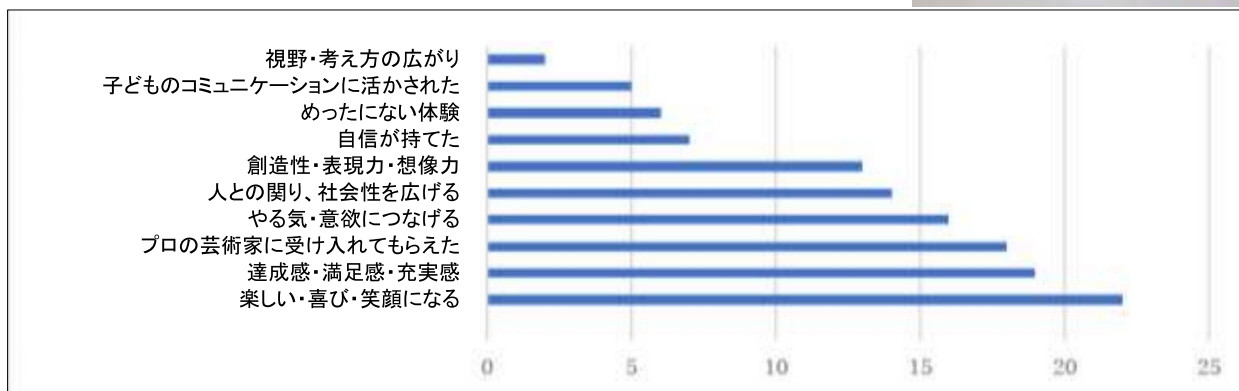
<おはなしと色々青虫ストラップ 松戸照子他 3 人 >

17	グリーンヒルキッズゆりのき台	12月28日（火）13:30-15:30	子ども 8 人 施設関係者 4 人
18	グリーンヒルキッズ村上	2022年1月10日（月）13:30-15:30	子ども 5 人 施設関係者 2 人

軍手にわとりがこんには！卵を産み、ひよこがかえって「かわいい！」と声が上がった。「はらぺこあおむし」絵本の話に引き込まれて自分の持っている食べ物を食べさせた。青虫制作はフェルト材料の色を選ぶのも楽しそう。テグスでフェルトやビーズを通す細かな作業も丁寧にやりとげた。「難しかった。でもできて嬉しい。」手先をうまく動かせない子も指導者と一緒に仕上げ、達成感満足感を味わっていた。作った青虫で人形劇の様に楽しんでた。



～施設関係者記述式アンケート 89 枚から～



■施設職員のアンケートの記述から自己肯定感やQOL向上が感じられた

個々の多彩な子どもの感情や表現、変化を捉えている。プロによる芸術的な体験ワークショップが、子どもたちにどれだけ多くの心の豊かさを与えているかが、施設等の大人 89 枚の記述から見えてくる。すべての記述がプラス志向であり、その捉えた姿はリアルであり具体的であり、ワークショップの効果が高いことを大人自身が認識し喜んでいる。日常接している子どもたちの成長やびっくりするような発見を、こうした場や機会でも認識できることは、職員や指導者にとっても「学び」になるのではと考えられる。

# 令和3年度文化芸術による子供育成総合事業 —芸術家の派遣事業—

芸術体験授業のとりくみ **92校** 小学校83校、特別支援学校9校 **参加者数 3,412人**

新型コロナウイルス感染拡大の中で3年目に入った芸術家の派遣事業は、当初104校からの申し込みが出た。制限された学校生活が続く、学校行事が減り、“楽しい学校”がいつ戻るのかという期待感と先が見えてこないあきらめ感が入り混じるような時に、芸術家の派遣事業がはじまった。感染防止対策の徹底、安全と安心の環境づくりを心がけながら芸術体験のコーディネートを進めた。8月後半から感染者数の急拡大に伴い、9月実施校の大半が時期を延期することになった。本格的に始動したのは10月からになった。実施が決まったのは小学校83校、特別支援学校9校の合計92校になった。小学校は公立全小学校の11%、特別支援学校は21%に当たる高い数字にあたる学校で芸術体験がとりくまれた。本事業を7年間継続し、芸術体験の効果が少しずつだが浸透を感じる。

## ■芸術家はコロナ禍でも県内中を駆けめぐる

3年にわたる新型コロナウイルス感染拡大の中で学校行事が形を変えて行われ、大きな声で歌うことやリコーダー演奏は制限が続いている。11月以降は新型株が学校にも広がり、学級閉鎖やオンライン授業になった。出会いや体験が少なくなりコロナに翻弄されている学校では骨折の増加、なんとなく学校に行きたくなくなる、自殺願望などの問題に教師たちが心を砕いている。芸術家の派遣事業は感染対策を徹底させながら県内中を駆け巡り、92校で実現し、やむを得ず中止したのは5校となった。

## ■芸術体験授業の事前の準備が子どもたちのモチベーションを高め、芸術家のメッセージが熱く変化し、こどもたちにより高い満足感をもたらした

事前に担任教師と子どもたちが制作活動をしたり、授業で触れる時間を設けたりすることが心待ちにする気持ちを持たせ、意欲に結びつき、初めてのことに一歩踏み出す勇氣をもたせ、深い満足感を得ることができたようだ。

## ■32人のコーディネーターが芸術家と教室をつなぐ

実施が決まった学校からとりくみたい芸術家、学年、人数を聞き取り芸術家と連絡を取り日時を決める。一か月前までに芸術家と共に学校に向き、打合せと会場の下見。子どもたちの様子、教科の位置づけ目標を聞き、芸術家が授業に込めるおもしろい語り、先生が当日をイメージできるようにし、コロナ対策を確認し当日を迎える。会場・控室の設営、進行確認、授業中の子どもたちや芸術家の様子を記録する。フォローアップとして3度目の学校を訪問し、ふりかえりとまとめまでを32人が活動。今年コロナによる日程変更や中止の対応にも追われた。

## ■正解を求めない芸術体験では、すすんで手をあげ前に出て楽しそうにダンスをし、高座にあがってしぐさをする児童に、教師が驚く

芸術体験の授業では子どもたちのまの表現を認め、正解を求めません。「いいですね」「すばらしい！」の誉め言葉は安心して自己表現することができます。ひとりひとりの主体性が尊重され、失敗を恐れず挑戦する児童たちが教師を驚かせている。

## ■特別支援学校では

知的障害、肢体不自由、視覚障害、病弱の児童生徒が学ぶ県立・市立の特別支援学校が県内に43校ある。中でも障害児の卒業後の自立にむけた力を育成することが教育に求められている。その力の一つに「余暇活動」があげられている。社会参加を高めていくために余暇活動が教育現場で重要視され位置づけられているが指導内容や指導体制は確立していない。芸術家派遣事業ではバルーンアート、落語、ダンス、アフリカンパーカッション、楽器作り、和太鼓、パントマイムなどが丁寧な打ち合わせ後にプログラム内容を特別支援学校バージョンにしてとりくまれた。



ライオンキングの動物の帽子をかぶって会場へ

## 芸術家派遣事業、特別支援学校での可能性と高まる期待

- 事前の打合せ後に、下調べをし、経験を重ねながら当日にもつて行った。子どもたちにとって余暇を広げることがテーマだった。事前打ち合わせはとても助かった。
- 自己肯定感が低く初めてのことへの挑戦ができない子がやってみることができたのは大きな一歩。
- 実体験の少なさが大きな課題だが芸術にふれる機会をもっと利用していきたい。
- 行事が何もかも中止され、実施できて本当にうれしい。
- 卒業後は社会の一員となるので社会に出てから豊かな生活を送って行くために余暇活動の一助になるよう経験を積ませてあげたい。
- 言葉がないパフォーマンスは知的に障害があっても十分楽しめるものだと改めて感じました。
- 外部の方の指導は特別感があつてよかった。継続していきたい。
- 生演奏聞き、実体験をしたことが大きな経験のひとつになった。やりたい気持ちが引き出され、気持ちや思いを表現することへの可能性が感じられた。

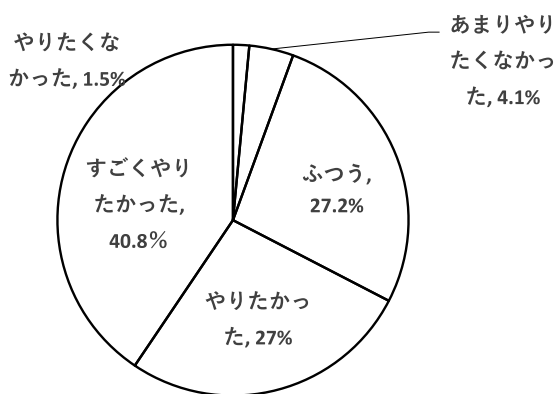
# データから見える 92 校の子どものきもち・学校の成果

## ◆講師のジャンル別実施校数内訳◆

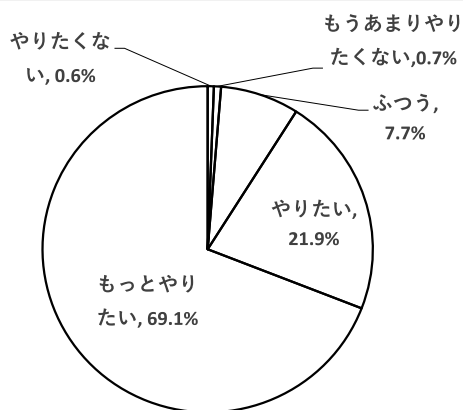
音楽（声楽 弦楽器 パーカッション 古楽器）	26 校
演劇（現代劇 ミュージカル パントマイム クラウン）	14 校
舞踊（バレエ モダンダンス）	7 校
大衆芸能（落語）	18 校
伝統芸能（歌舞伎 狂言 和太鼓 箏）	27 校



## ワークショップをやる前の気持



## ワークショップをやったあとのきもち

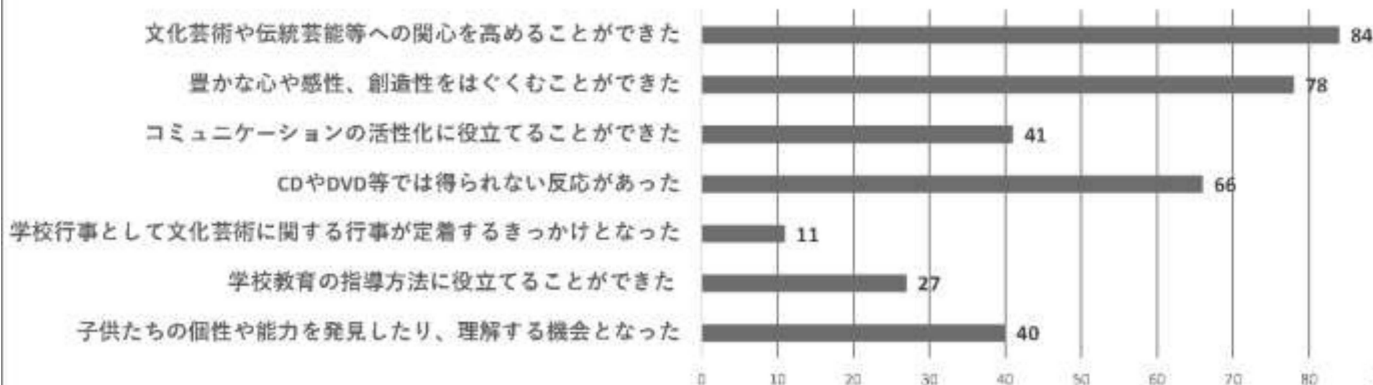


■ワークショップやる前のきもちは、やりたくなかったを含め、気持ちがあまりうごいていなかった子どもが 33%、興味をもってやる気になっていた子どもは 67%だった。

■90 分のワークショップをやった結果、きもちがあまり動かなかった子どもが 9%になり、やりたい気持ちが高まった子どもは 91%で、やる前より 24%増えた。

■ワークショップの直後に、体育館の床で書いたり、教室に帰ってすぐ書く「ふりかえりシート」。それを読むと、そのジャンルの芸術に初めて出会った興味シンシンのようす、また講師に出会って感じる尊敬とか親しみといった気持ちがあふれている。

## 芸術家派遣事業による効果及び成果（実施92校からの複数回答）



## ◆ 成果として「学校教育の指導方法に役立てることができた」を選んだ先生方の声 ◆

- \* ダンスで「自分は自分、感じたままに動けばいいよ」と言われて頑張っている子を見て、普段からもう少し負荷をかけても大丈夫と思えた。
- \* 子どもたちとエア太鼓を叩くなど、スモールステップを踏みながら完成に近づく成功体験ができ、本当によい情操教育を実感できた。
- \* オーケストラのプロの芸術家の方から楽曲の背景、演奏家の苦労をきくことができ、児童も教員も知見が深まり、ふだんの学習の発展ができる。
- \* 「相手が何を考えているか想像する」パントマイムは、自立活動として大切な課題であり、早速授業に取り入れている。
- \* ミュージカルで、歌詞の意味を考えて歌う体験ができた。卒業式の練習でも表現方法など工夫したい。

## アフリカの太鼓

講師:BBモフラン ダウディ 典子

①	10月6日(水)	流山市新川小	特別支援学級	13人
②	10月12日(火)	船橋市金杉小	5年生	51人
③	10月18日(月)	千葉市稲浜小	2・3年生、特別支援	53人
④	10月19日(火)	習志野市香澄小	2年生	35人
⑤	10月20日(木)	流山市八木南小	6年生	30人
⑥	10月21日(木)	松戸市六実第二小	1年生	30人
⑦	10月22日(金)	県立八千代特別支援	小1~6年生	49人
⑧	11月2日(火)	南房総市嶺南小	2年生	44人
⑨	11月4日(木)	大網白里市季美の森小	3・4年生	36人
⑩	11月10日(水)	旭市共和小	3年生	34人
⑪	11月11日(木)	香取市瑞穂小	5・6年生	41人
⑫	11月12日(金)	香取市香取小	4~6年生	31人
⑬	11月16日(火)	野田市東部小	6年生	30人
⑭	11月18日(木)	東金市日吉台小	5年生	43人
⑮	11月24日(水)	県立船橋夏見特別支援	中等部1~3年生	38人
⑯	11月30日(火)	佐倉市弥富小	3~6年生	35人
⑰	12月3日(金)	茂原市茂原小	5年生	51人
⑱	12月20日(月)	いすみ市東海小	6年生	28人
⑲	3月3日(木)	旭市萬歳小	1~4年生	49人

アフリカの太鼓の迫力に心がはずんで、  
体が動きそうでもたまらなかった！

- ◆プログラム
- ・歌と演奏による講師紹介
  - ・ジャンベ、ドゥンドゥンバト、トーキングドラムなどの楽器紹介
  - ・アフリカのことば
  - ・パーカッション、ダンスとリズムあそび体験



入場の太鼓が鳴って拍手と子どもたちの歓声で講師登場！アフリカン衣装で体育館の雰囲気がかわった。楽器の紹介「トーキングドラム、クドクドゥ知らない楽器なので聞き返す。アフリカの言葉クイズに意味があまりに違って大笑い。太鼓体験はグループに分かれて交代しながら叩き、アフリカの太鼓の感触を味わった。アンコールで「そーらん」を踊りまくった。腰みのスーパーダンサーズ現れる！

- ・おどりあんこーるしたかったよ
- ・スーパーダンサーに選ばれてすごうれしかった。うれしかった。うれしかった。全部面白かった
- ・僕の心と体を動かしてくれる曲、「本気」で人生一番心に響いてとても楽しかった。

## 歌唱

講師:うたこさん ぴんたろう  
上村純(リーフ企画)

①	10月19日(火)	館山市神余小	1~6年生	16人
---	-----------	--------	-------	-----

4つのミッション達成~感じながらうたう~歌詞・ほかの人の歌やバンドの音・楽しんで

歌いながらメンバー紹介と楽器を紹介して「ゆかいに歩けば」をうたにあわせて身体を動かしてほぐしていった。歌子さんの歌を聞き、もっとみんなで歌いたくなったようだ。ミッションクリアしながら「翼をください」を完成させ、最後は振りをつけて舞台上で発表した

- ・のびのび歌えて、とても楽しかった。いろんな音が聞こえて楽しかった
- ・きれいな音楽でまたやりたい
- ・あらためて音楽が楽しい



- ◆プログラム
- ・講師 楽器紹介 ・ミニコンサート
  - ・「翼をください」から4つのミッションを目標にして歌うワークショップ
  - ・全員で歌おう

## 音楽

講師:松本伸二 長尾裕子 高田美樹子 鈴木奈津子 横田知  
若狭直人 海老沢洋三 池田空 佐藤健(千葉交響楽団)

「思いっきり弦を弾いていいんだよ、力を抜いて大きく引く！」音はギーギー、でも満足！

①	12月3日(金)	市原市戸田小	6年生	40人
②	12月16日(木)	東金市丘山小	4~6年生	25人
③	12月17日(金)	成田市中台小	4年生	31人
④	12月20日(月)	八千代市南高津小	6年生	38人

- ◆プログラム
- ・オーケストラの話
  - ・実演 ピアノ・ヴァイオリン・ヴィオラ
  - ・楽器体験
  - ・演奏と児童の合唱 校歌・パプリカ



オーケストラのお話を静かに集中して聴いて、演奏家が入場すると「わーすごい」「オーっ！」と歓声が上がります。演奏が始まると身動きしないで見つめている、身を乗り出している、頭をふったり、足でリズムをとっている。体験はチェロを実際に弾いてみた。椅子の座り方、チェロを抱くように足を挟んで、弓の持ち方は、手を取り教えてくれた。一生懸命やって「ギーギー」と音が出ると、難しかったけど楽しかった。

- ・チェロの美しい響きが心に響いた。楽しく充実した時間を過ごした。
- ・久しぶりに効果やパプリカを歌えてうれしかった。
- ・チェロと一緒にみんなの歌声が一番の思い出になってうれしい

## 音楽

講師:松本雅隆 上野哲生(ロバの音楽座)

①	10月1日(金)	県立船橋特別支援	3・4年生	31人
②	11月10日(水)	成田市向台小	5年生	41人

- ◆プログラム
- ・耳を澄まして周りの音を聞いてみる
  - ・古楽器の紹介と演奏、楽器の起源
  - ・楽器作り
  - 森のオルゴール/新聞紙で自分の音作り
  - ・バグパイプと森のオルゴールの演奏/合奏しながら踊る



ひとつの音探し、身のまわりの音に耳をすませてみよう。

バグパイプの演奏に空気が一変、じっくり聞き入っていた。自分の周りのかすかな音、ゆっくり話す声がすでに音楽のようでじっくり耳を傾けていた。新聞紙でじぶんの音を見つけたり、森のオルゴールづくりでは、どんどん自由に塗り、釘を打って自分なりに仕上げる達成感とそのオルゴールの音を楽しんだ。

- ・静かにしているといろいろな音が聞こえてきました。新聞紙のがさがさと楽器の音が合わさってとてもきれいだった
- ・作った楽器もかんたんなのにきれいな音が鳴ってすごい

# 今日は遊ぼう！！何にだってなれる！

## ミュージカル

講師：藤森裕美

金村瞳 山川優海（イツフォーリーズ）



- ◆プログラム
- ・講師自己紹介
- ・ミュージカル披露
- ・グループでお題を表現
- ・「手のひらを太陽に」うたう
- ・グループワーク、発表

①	12月13日(月)	市原市市西小	6年生	19人
②	12月14日(火)	我孫子市布佐南小	5年生	31人

★グループに分かれてミュージカルづくり。子どもたちの中からたくさん  
のアイデア、意見をだし合いながら、ストーリーが出来あがった。  
こうやってみよう、ああやってみようとなりきっていった。  
・みんな面白い役をやっていたし、なりきってたのしかった。  
・自分たちで考えておどれて楽しかった。  
・自分たちで作ってその役を演じることができてよかった

## パントマイム

講師：チカパン（パントマイムプラネット）

### 勇気をだしてやってみよう

チカパンが黙って登場。パントマイムが始まると、みんな集中！  
ラジオ体操、歯ブラシのパントにくすくす笑いが起きた。手のパントは  
ちょうちょを手の動きと目線でつないでいった。パント創作「走ってき  
て壁にぶつかる」「何とかして出る」のお題に挑戦。ひとりひとり考えて  
披露した。どんどんマイムの世界に引き込まれていった。  
・人を喜ばせることをしてすごい。自分も喜ばせるようなことをしたい。  
・どんなにおもしろいか楽しさがわからなかった。やってみてすごく楽  
しかった。  
・じぶんでやってみると大変なこともあったけど、発表した後にほめて  
もらうれしかったです。

- ◆プログラム
- ・パントマイムショー披露
- ・パントマイム体験
- ・パントマイムしりとり
- ・パントを考える
- ・手のパント



①	10月12日(火)	野田市木間ケ瀬小	6年生	20人
②	10月27日(水)	旭市豊畑小	6年生	31人
③	11月1日(月)	県立君津特別支援 上総湊分教室	小2～中3年生	22人
④	1月28日(金)	流山市西深井小	6年生	31人
⑤	2月2日(火)	県立つくし特別支援	1～6年生	中止
⑥	2月15日(火)	習志野市向山小	2年生	中止

## 子どもたちはあそびきった！

- ◆プログラム
- ・クラウンショー披露
- ・バルーンアート体験



①	10月29日(金)	四街道市山梨小	3年生	18人
②	12月9日(木)	市原市国府小	3・4年生	34人
③	12月14日(火)	県立湖北特別支援	高等部3年生	22人
④	12月15日(水)	松戸市常盤平第一小	1～4年生	41人
⑤	12月21日(火)	市川市須和田の丘 支援	中等部1～3 年生	36人
⑥	1月27日(木)	東金市豊成小	6年生	中止

## クラウン

講師：ブッチー びり

大森ちづえ（蒼い企画）

オープニングから盛り上がり歓声が上がる。ジャグリング、  
パントマイムに笑いが、終始笑い声としゃべりかけがとまらな  
い。友だちと顔を見合わせて笑い合う。どの子も大満足という  
表情がみえた。「イエーイ」の大きな声で風船ワークが始まると  
みんな頑張って風船をねじってねじってちよっと遊びながら、  
ねずみ・蝶ネクタイ・リボン・メガネ・花・緑の葉っぱ・メイドさん・  
おたふく・カーネルサンダー・弓矢と作品ができた。  
最後は作った弓矢で先生めがけて矢を放った。  
・最初は作れるか自信がなかったけど、できてうれしかった  
・風船は音がこわくてきらいだったけど、いっしょにあそぶ風船  
はこわくなくなった。

## 演劇表現

講師：神山一郎

①	12月13日(月)	香取市小見川北小	3年生	26人
---	-----------	----------	-----	-----

- ◆プログラム
- ・拍手送り
- ・指差し入れ替わりゲーム
- ・劇づくり
- ワンポーズオブジェ



## 自分の意志でポーズ、おしばいが出来上がった！

ゲームからはじめて、だんだん雰囲気になれてきた。お互いに  
思いやりながら、進んでいった。  
一人ひとり自分の考えたワンポーズオブジェ、次の人、次の人と  
だんだん重なっていったら、おしばいになった。  
・ともだちと普段やらないことができてすごかったのしかった。  
・はずかしがりやなのでみんなのまえでやるのは不安だったけど  
これからもみんなのまえでえんぎしたい  
・コミュニケーションの意味がやってみてわかった。上手にできた

## 演劇表現

講師：大潤弘幸 岡本圭（劇団風の子）

①	12月20日(月)	野田市北部小	1年生	42人
---	-----------	--------	-----	-----

大潤さんに集中！名前を付けて、おにぎり、ぎゅ、いや～ん、シャ  
キンすわり？なりきりかくれんぼ、何になった？  
お手玉を友だちの頭、肩にそっこのせて、いくつも積みかさな  
っていった。けん玉あそび、コマ回しが大人気！コマが回せず悔  
し泣き、うれしい、たのしい、おもしろいがひろがっていった。  
・すごくすごくすごくやりたいなー  
・こまができなくてくやしかった  
・とてもすごかった。100回やりたい しぬまでやりたい

## 次はどんなことやるの？ワクワクがとまらない！



- ◆プログラム
- ・アイスブレイク
- 座り方に名前を付けて/あるこ  
うあるこ！/なりきりかくれんぼ
- ・伝承遊び
- お手玉/竹とんぼ/紙コップけん  
玉/コマをまわそう

## バレエ

講師：中武啓吾 竹内菜那子 今井智也  
古澤可歩子 三木雄馬（谷桃子バレエ団）

## プロが踊ったバレエはキレイで美しかった

①	11月24日(水)	松戸市松飛台第二小	4年生	76人
---	-----------	-----------	-----	-----



- ◆プログラム
- ・バレエの歴史と解説・「白鳥の湖」の解説・実技披露
  - ・ワークショップ ストレッチ、手足のポジション説明
  - ・バレレッスン・センターレッスン・マイム バレエのお辞儀

ストレッチで体のかたさをチェック「イタ、イタタ」「無理無理」といながら楽しそう。バレレッスンで自信のある子も出て音楽に合わせて基本のポージングも様になってきた。実演では、「白鳥の湖」第2幕グラン・アダージョの鑑賞、引き込まれるように見ている。こどもたちから、美しかったの音がたくさん聞こえてきた。

- ・演技だけで表すなんてすご！踊りで表現すごい！
- ・感動した、バレエって女の人のしかないと考えていた。
- ・手と足までピーンとのびていてきれいだなって思った。

## ダンス

講師：安西真幸 安西千紗

## ダンスのイメージが変わった？「それいいね！」

①	10月19日(火)	野田市尾崎小	4年生	48人
②	10月26日(火)	君津市坂田小	6年生	27人
③	11月2日(火)	成田市公津小	5・6年生	40人
④	11月12日(金)	成田市大栄みらい学園	1年生	54人
⑤	12月10日(金)	木更津市中郷小	4～6年生	39人
⑥	12月17日(金)	県立栄特別支援	高等部1～3年生	45人

### ◆プログラム

- ・ウォーミングアップ
- ・実技披露
- ・みんなで踊る
- ・みんなでダンスを考える
- ・仕上げ 全員ダンスの発表



ダンスって ステップはこうやってとかのイメージ！自分なりに全力でやればOK！他人と違っていい、そして他人がやっている価値観、考えを認める「それいいね」間違っても何の問題もない。イメージを感じる、スローで歩く エアーキャッチボール、子どもの発想は広がっていく。子どもたちの動きが変わってきた。まあちゃん・ちいちゃんのダンス披露ではみなすごい声！

- ・自分の本当の気持ちをダンスにできてスッキリした
- ・ダンスの楽しさやみんなとダンスするすばらしさそのきもちになつてうれしかった
- ・「あれ？楽しいぞ！」まあちゃんがほめてくれてうれしかった。
- ・コンテンツラリーだんすをやって自由にダンスをやるのが楽しくて、得意になった気分

## 歌舞伎

講師：松涛喜八郎 上滝啓太郎  
松浦海之助 秋元辰美（前進座）

## 堂々して、見事な立ち回りに自分達も挑戦！！

①	9月30日(木)	市川市国府台小・第一中院内学級	小4～中3年生	15人
②	10月5日(火)	習志野市袖ヶ浦西小	6年生	35人
③	1月18日(火)	四街道市栗山小	6年生	29人
④	1月19日(水)	四街道市吉岡小	5年生	55人
⑤	1月24日(月)	松戸市高木小	6年生	28人
⑥	1月25日(火)	松戸市貝の花小	6年生	41人

### ◆プログラム

- ・歌舞伎の解説と実演
- 見得、石あて、女形
- 立ち回り
- ・立ち回り体験
- 山形・ひざ詰め・鬼飛び
- ・発表



舞台の上にはざらっと並んで、口上が始まった。拍子木の音が響いた瞬間、体育館が静まり返った。子どもたちの背筋が伸びた。実演を交えながら、歌舞伎の解説、見得、女形(先生たちが挑戦)を体験。石をあてるシーンでは、たくさんのお名優が誕生、会場中から拍手が起きた。殺陣の体験では、山形、ひざ詰め、鬼飛びと最初こそ苦戦していたが、最後は息の合った殺陣に、見事に達成！

- ・発表の後、ほめられて自信がわいた。
- ・むずかしいところが多かったけれど、それができたときに達成感があって楽しかった。
- ・自分の中では100点！

## 狂言

講師：大蔵教義 吉田信海  
上田圭輔 小椋直人（大蔵流吉次郎狂言会）

今日は大きな声を出します。笑います！！

①	10月11日(月)	市川市稲越小	6年生	28人
②	10月25日(月)	栄町竜角寺台小	5・6年生	31人
③	10月29日(金)	成田市神宮寺小	5年生	27人
④	11月15日(月)	八千代市睦小	5年生	37人
⑤	11月22日(月)	茂原市西小	6年生	33人
⑥	12月10日(金)	茂原市豊岡小	6年生	33人
⑦	12月13日(月)	いすみ市太東小	6年生	36人
⑧	1月17日(月)	四街道市旭小	6年生	33人

### ◆プログラム

- ・狂言の解説
- ・「柿山伏」披露
- ・登場人物クイズ
- ・発声 構え
- ・装束 面の紹介
- ・質問



体育館に作られた能舞台、緊張して座ると、講師が「今朝ごはん食べた」と問いかけた。だんだん気持ちが和らいだ。呼び名の自己紹介も「のりちゃん、ウエンディ、しんしん、じいじ」に笑いが起こる。実演「柿山伏」見た後、どちらが悪いで意見のやり取り。「日常起こる争い、どうしたらいいか、想像力を養い人の気持ちがわかるといいね」構え、セリフの体験では大きな声があがった。

- ・本当に600年前、タイムスリップしたみたいだ
- ・なかなか大きな声だせない、久しぶりに声出して楽しかった
- ・迫力があって想像することもおもしろかった

## 和太鼓

講師：佐々木美菜子  
MORIMITSU 河原貴裕 関根まこと 澤田崇司  
本間えりか 森澤良太 金刺由大 織本卓

間違ってもいいよ、おもいっきりたたいてね！

①	10月4日(月)	千葉市朝日ヶ丘小	6年生	39人
②	10月18日(月)	船橋市暁が丘小	6年生	35人
③	10月26日(火)	鎌ヶ谷市南部小	5年生	38人
④	10月29日(金)	市原市国分寺台東小	6年生	53人
⑤	11月12日(金)	富津市環小	3~6年生	37人
⑥	11月13日(土)	銚子市船木小	1~6年生	60人
⑦	11月20日(土)	御宿町布施学校組 合布施小	1~6年生	39人
⑧	11月24日(水)	八街市八街北小	6年生	37人
⑨	11月29日(月)	富里市浩養小	4~6年生	36人
⑩	11月30日(火)	松戸市金ヶ作小	6年生	34人
⑪	12月20日(月)	県立飯高特別支援	小・中・高等部	51人
⑫	1月13日(木)	旭市滝郷小	4~6年生	47人
⑬	1月19日(水)	鴨川市長狭学園	3・4年生	48人
⑭	2月22日(火)	香取市津宮小	1~6年生	46人
⑮	3月3日(木)	野田市関宿中央小	6年生	中止

### ◆プログラム

- ・講師演奏 太鼓 篠笛 津軽三味線
- ・楽器紹介、説明
- ・体験ワーク  
大太鼓をたたく「どんぐりコロコロのリズムで」
- 発表会
- ・講師演奏



体育館に並べられた太鼓、講師による太鼓演奏に子どもたちは凄さに驚いた。「どんぐりコロコロ」のリズムに合わせてリズムを覚えた。友だちの演奏にすごい、かっこいいと応援。交代しながらどんどん腕が上がって自信と達成感、満足感を得た。

- ・楽しい、心が高鳴る気持ちが合わさって体験したことのない気持ちがいっぱい！
- ・やったら楽しかった、出来た時にはすっきり
- ・「できない〜！」よりも「楽しい」が勝った
- ・間違えても笑顔で見てくれてやるきがでた。
- ・手が震えるほどすごかった！
- ・意外な特技、才能発見

想像力をはたらかせて！ 全員正解！！

①	9月8日(水)	四街道市みそら小	4年生	17人
②	10月6日(水)	松戸市八ヶ崎第二小	4年生	57人
③	10月12日(火)	館山市西岬小	4~6年生	31人
④	10月15日(金)	松戸市六実第三小	4年生	70人
⑤	10月18日(月)	市原市菊間小	3年生	37人
⑥	10月26日(火)	松戸市大橋小	4年生	40人
⑦	10月29日(金)	横芝光町上堺小	4~6年生	47人
⑧	11月10日(水)	野田市二ツ塚小	6年生	43人
⑨	11月11日(木)	佐倉市小竹小	5年生	41人
⑩	11月17日(水)	香取市北佐原小	4~6年生	29人
⑪	11月18日(木)	船橋市三山東小	4年生	77人
⑫	11月19日(金)	木更津市西清小	4年生	37人
⑬	11月22日(月)	佐倉市山王小	5・6年生	42人
⑭	12月3日(金)	野田市福田第一小	3~6年生	45人
⑮	12月14日(火)	県立盲学校	小・中学部	21人
⑯	1月17日(月)	八街市交進小	5年生	39人
⑰	1月24日(月)	木更津市波岡小	4年生	42人
⑱	1月28日(金)	八街市笹引小	5・6年生	中止

## 落語

講師：柳亭市弥 古今亭始 柳家緑太  
柳亭市童 入船亭遊京 柳家圭花 柳家小はせ  
三遊亭わん丈 伊藤輝(落語協会)



### ◆プログラム

- ・落語の解説 ・てぬぐいと扇子の使い方
- ・落語の実演「牛ほめ」「初天神」「桃太郎」「転失気」「まんじゅうこわい」「たぬきの恩返し」「もと犬」「寿限無」「時蕎麦」「あくび指南」「つる」「子ほめ」「道具屋」から
- ・高座で演じる体験 ・質問

舞台上に台を置き、緋毛氈を敷き、高座が出来上がった。まずは落語家さんが一席、「登場人物は何人だったでしょうか」想像の世界が広がって「そうだね」と受け止めてもらえて、正解はなし。「何をしていますでしょうか？」次から次、声が上がって、ひとつとして同じものがでてこない。子どもたちも高座に上がってやったら、想像豊かなものが演じられた。客席からの応援の声、笑い声何年ふりで楽しかったようだ、最後にもう一席。

- ・ちゃんと伝わるようにやっていてすごいな、落語っておもしろい。
- ・今日は特別の日になった。「上手だね」ってうれしかった。
- ・様々な想像膨らませて楽しかった
- ・本当にその場にいるようでおもしろかった

## 箏

講師：中村文香代妃 朝香麻美子 清野さおり  
清野樹盟 山崎忍 山崎亜美(千葉県三曲協会)

①	2月22日(火)	横芝光町白浜小	4年生	17人
---	----------	---------	-----	-----

ずらっと並んだお箏！見るのも初めて、触るのも初めて。「生田流」「山田流」爪の形も椅子の座り方も違う。お爪の説明を受けて一生懸命指に差し込んだ。恐る恐る音を出してみる。やがて弱かった音も強くなって「さくらさくら」の綺麗な音色が聞こえてきた。丸くなった背中をびんとし、最後は見事な演奏となった。「いいね！上手ですよ」の講師の言葉にみな嬉しそう。体の緊張も取れて、最後の講師の演奏に見入っていた。

- ・むずかしかったけど、さいごにまちがえないでひけたのでとてもうれしかった。
- ・糸がそうぞうよりも、かたくてびっくりした。
- ・「ひけるかな」と思いながら足がぶるぶるし、声ができなかったけど、けっきょく「おれひけるやん」と思った

はじめて箏に出会って、「さくらさくら」が弾けた

### ◆プログラム

- ・箏の説明
- ・箏を弾いてみよう「さくらさくら」
- ・講師演奏「六段の調べ/ひぐらし/春の海」
- ・アンコール



# 今年も訪問しました！54市町村行政訪問

■「チャイルドライン千葉」の声を届ける  
公立中学校36校、文化庁事業対象の小学校、支援学校97校、千葉県内公立高校にカード計20万枚と、ポスター1千枚を配布。年次報告書で、声の特色や傾向を伝え、教育委員会からはヤングケアラーの質問や、マスクの着用が長期になることへの心配、ゲーム依存、体重増加、捻挫などが多くなったと子どもたちの様子を聞いた。また、先生方がコロナ対策で神経を使い、感染を起こさない対応を必死で行い、かなりのストレスと業務が多忙になっている現状も聞いた。

## ■「ママパパラインちば」の声を届ける

子育て支援課を通じて5万9千枚、755の小学校1年生〜3年生に7万1千枚の配布。配布後、もらったカードでかけたという電話が増え、ママパパラインのキャンペーンでは6日間で45件の電話が入り、子育て家庭の悩みや不安を聞いた。情報が当事者や社会に届いた手応えがあり、行政や学校を通じての周知は、家庭にとつては信頼し安心してかけられるという強みがあることを実感した。

## ■芸術と子どもとの出会いの確かな手応え

①乳幼児と芸術プログラムの匠巻の出会い  
子育て支援として有効性が高いと実感した市町村行政や、関心をもってくださいる子育て支援課で、実施したリアルを報告し共有した。「行政の子育て支援施策として連携をしましょう」と力強く提案している。

## ②芸術家派遣事業の拡がりによる成果

県内の小学校や特別支援学校の授業に、芸術的体験のプログラムを、今年度92校に届けた。子どもたちの表情やアンケートの声と、先生からの授業としての評価も伝えた。今後、年間を通じ市内のどの学校でも芸術的なワークを実現するために、その市毎に、財政的な支援施策を実現できないかを提案し続けている。



## チャイルドライン千葉 第14期受け手ボランティア養成講座 【公開講座】開催

子どもの状況に関心を持つ大人を地域に広げていくために、4回の公開講座を実施しました。(ZOOM開催)

### 第1回 子どもの今を知る メディアとの上手な向き合い方

講師：阿部学さん  
(敬愛大学教育学部准教授)  
12月8日(水) 参加者：66名

◆デジタルネイティブと呼ばれる子どもたちの世界の住人になってみる？  
◇感想から  
メディアの世界が魅力的ではあるが多くの危険が潜んでいるかを知ることができた。

### 第3回 子どもの権利 ～基礎と擁護～

講師：中溝明子さん  
(弁護士)  
2月10日(木) 参加者：26名

◆子どもの権利を考える視点は、子どもが権利行使の主体であること。子どもの目線で世界をみてみよう。  
◇感想から  
子どもの思いを受け止めてくれると信じてもらえる大人でいたい。

### 第2回 ①きくこと ②子どもに寄り添う自殺予防 ～私たちにできること～

講師：磯邊聡さん  
(千葉大学教育学部准教授)  
1月21日(金) 参加者：25名

◆子どもに寄り添うTALKの原則  
・Tell：言葉に出して心配していることを伝える  
・Ask：「死にたい」という気持ちについて率直に尋ねる  
・Listen：絶望的な気持ちを傾聴する  
・Keep Safe：危険と判断したら一人にせず寄り添い、他からの適切な援助を求める

### 第4回 思春期の発達を学ぶ 男の子の性・女の子の性

講師：鶴岡利江子さん  
(千葉県助産師会)  
2月24日(木) 参加者：22名

◆子どもたちが、性の発達を知ることは、生きることであり、心が安定し強味になる  
◇感想から  
自分の身を守るためにも、子どもたちは性について正しい知識を持つことが大事だと感じました。



## 「ママパパラインちば」 全国キャンペーン 6日間で45件の声

☎2月14日(月)～2月19日(土) 10:00～16:00  
☎6日間 45件(昨年15件) 総時間 1099分  
☎かけ手：母親41人、父親2人、その他2人  
☎子どもの年齢：0～2歳～未就学前25人(48%)  
小学生19人(36%) 中学生以上8人(15%)

☎アドカード161,000枚 ポスター5,000枚を配布  
54市町村行政の教育委員会、子育て支援課、755校の小学校、小児科医会、歯科医師会、社会福祉協議会、NPO、子育て関係機関を通じ、当事者や社会に届けた。

☎マスコミ等掲載  
・毎日新聞(1/13)・東京新聞(1/28)・千葉日報社(2/10)・房日新聞(2/6)・ウキウキ(2/4)・北総よみうり佐倉よみうり八千代よみうり統合版(1/28)・うらやす新聞(1/21)・行徳新聞(1/21)・いちかわ新聞(2/4)・地域新聞(2/4)

☎かかってきた声の特色や傾向(プライバシーに配慮して再構成)

★養育者自身(母親)の辛さや苦しさ、イライラ、怒りが爆発しそうで、押さえられない自分を訴える声が届きました。

★コロナ禍での長期自粛生活を起因としたトラブルや子どもの心配等で、特に母親の心身にじわじわと影響が出ていると感じています。泣きながらかけて来てくれたママもいました。

★家に閉じこもりがち子どもたちが 家庭内で兄弟同士のけんか、反抗的な態度への対応、発達障がいでは？と子どものことを心配する不安な気持ちを吐き出し、誰かに聴いてほしいと求めてかけてくれました。

## ★「こども家庭庁」創設のうごき 旬ニュース★

2月25日、「こども家庭庁」の関連法案が閣議決定され、国会に提出された。2023年の4月創設をめざす。「こどもの最善の利益を第一に考え、常にこどもの視点に立ち、こども真ん中という社会変革をしっかりとしていくために、法案の成立に取り組む」と、野田こども政策担当相がコメントした。

## 編集後記

ロシアがウクライナへの軍事侵攻をはじめ、一般市民も巻き込まれ、何も罪のない人たちや子どもたちも怯え、国外へ避難し家族バラバラになりつらい状況である。世界各地で抗議集会がおき非難の声が上がり支援も始まった。誰も戦争を望んではいない。みんな平和を望んでいる。そんな中でも赤ちゃんが生まれ、母子ともに元気とうれしいニュースが流れた。病院に入院している子どもたちも避難を始めている。子どもたちのことを思うと心が痛む。